

近藤英吉博士略年譜・著作目録（19訂稿）

令和4（2022）年6月26日（日）現在

〔目 次〕

（作成経緯）	2
【参考 HP】	4
【関係 HP】	6
1 はしがき	7
2 略年譜	9
3 著作目録	13
(1) 著書	13
(2) 論説その他	17
(3) 判例研究	21
(4) 辞典執筆	27
4 近藤英吉博士関連著作	27
5 近藤英吉博士関連新聞記事	34
(1) 朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」関連記事（朝日新聞縮刷版、5件）	34
(2) 「ヨミダス歴史館」（明治・大正・昭和の読売新聞記事紙面、2件）	35
6 国立公文書館資料	35
7 京都大学大学文書館 HP	35
8 林良平教授（1919～1995）関係資料	35

(作成経緯)

- HP 初出:
- ・平成 22 (2010) 年 10 月 18 日 (月) 初稿作成
 - ・平成 22 (2010) 年 10 月 23 日 (土) 改訂稿作成
(全般にわたり補正、追加)
 - ・平成 22 (2010) 年 10 月 30 日 (土) 再訂稿作成
(『民商法雑誌』掲載記事、辞典執筆を補正等)
 - ・平成 22 (2010) 年 11 月 1 日 (月) 三訂稿作成
(『京都帝国大学新聞』第 319 号訃報全文掲載、全般補正)
 - ・平成 22 (2010) 年 11 月 11 日 (木) 四訂稿作成
(林純平『関西学界展望』関係箇所を入力)
 - ・平成 22 (2010) 年 11 月 13 日 (金) 五訂稿作成
(「遺影抄」、「執筆に当りて」『外国法 現代外国法典叢書だより-No.10, 11-』全文入力、諸不明箇所追加等)
 - ・平成 22 (2010) 年 11 月 17 日 (水) 六訂稿作成
(柚木馨博士関係一部追加、『立命館百年史紀要』関係追加等)
 - ・平成 22 (2010) 年 11 月 28 日 (日) 七訂稿作成
(『法学論叢』第 43 巻第 4 号所載追悼関係記事の一部を入力)
 - ・平成 23 (2011) 年 1 月 1 日 (土) 八訂稿作成
(一部追加、修正)
 - ・平成 23 (2011) 年 1 月 9 日 (日) 九訂稿作成
(林良平教授関係資料一部追加)
 - ・平成 24 (2012) 年 2 月 20 日 (月) 十訂稿作成
(「国立国会図書館のデジタル化資料」
<<http://dl.ndl.go.jp/>> で補充、訂正)
 - ・平成 24 (2012) 年 6 月 6 日 (水) 十一訂稿作成
(一部追加、修正)
 - ・平成 26 (2014) 年 5 月 29 日 (木) 十二訂稿作成
(佐伯千仞博士関係資料一部追加)
 - ・平成 27 (2015) 年 10 月 4 日 (日) 十三訂稿作成
(伊達秋雄教授関係資料一部追加)

- ・平成 27 (2015) 年 10 月 19 日 (月) 十四訂稿作成
(伊達秋雄教授関係資料一部再追加)
- ・平成 27 (2015) 年 10 月 21 日 (水) 十五訂稿作成
(一部補正、誤植修正)
- ・平成 29 (2017) 年 10 月 29 日 (日) 十六訂稿作成
(京都大学大学文書館資料一部追加)
- ・令和 3 (2021) 年 11 月 3 日 (水) 十七訂稿作成
(表題変更、レイアウト変更、一部補正)
- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 十八訂稿作成
(表題変更、レイアウト変更、一部補正)
⇒『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・
高橋由利子先生略年譜・著作目録一【参考篇】【附篇】
一ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)一』(令
和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。
(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056>)
- ・令和 4 (2022) 年 6 月 26 日 (日) 十九訂稿作成
(一部補正、追加)

【参考 HP】(令和 3 年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、令和 4 年 6 月 26 日各一部修正)

*法制史学会 HP (平成 14 (2002) 年 10 月 5 日公開、平成 24 (2012) 年 4 月 1 日移転)

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

(新) 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

*全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・本 HP 別稿: 宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf〉

・本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>〉

・本 HP 別稿: 戸水寛人博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>〉

- ・本HP別稿：春木一郎博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>〉
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>〉
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>〉
- ・本HP別稿：田中周友博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>〉
- ・本HP別稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>〉
- ・本HP別稿：「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf〉
- ・本HP別稿：「『栗生武夫先生隨筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf〉
- ・本HP別稿：西本穎博士著作目録等抄
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>〉
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>〉
- ・本HP別稿：井上周三教授関係資料抄
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>〉
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>〉
- ・本HP別稿：筧克彦博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>〉
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>〉
- ・本HP別稿：増田福太郎博士関係資料一斑
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本HP別稿：山崎丹照先生著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本HP別稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉

- * 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉

- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉

- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉

- ・いろいろ電子文庫

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉

- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）

〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉

（註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

*「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂⇒（最新版：令和4（2022）年5月現在第7稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

（註）本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊〈福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉〉に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関係 HP】

- ・法制史学会：〈<https://www.jalha.org/>〉

- ・国立国会図書館：〈<https://www.ndl.go.jp/>〉

- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉

- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）

〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉

- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉

- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles のCiNii Research への統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

1 はしがき

昭和四十年代初めのことであったか、その昔昭和十年代中頃に京大法学部に学んだ方に、石田文次郎教授（1892～1979、大正 6 年京法卒）、黒田覚教授（1900～1990、大正 12 年京法卒）や近藤英吉教授（1901～1940、大正 14 年京法卒）といった当時の高文試験委員（高等試験臨時委員）で法学部の花形教授の思い出を聞く機会があり、そこで、初めて近藤英吉博士のことを知った。その後すぐ、さる図書館で、『法学論叢』第 43 巻第 4 号（昭和 15 年 10 月 1 日刊）所収の近藤博士追悼記事（「雑報 ○近藤教授逝去」、124～131 頁）及び『有斐閣 法律学全集 月報』掲載「民法学の回顧 座談会」¹等を読み、大きな感銘を受けた。

このうち、前者『法学論叢』第 43 巻第 4 号所収記事に大隅健一郎教授（1904～1998）²の「噫近藤教授」（126～129 頁）があったが、その中で、近藤博士が「我が国キリシタン（天主教）の歴史の隠れたる研究者であった。」（128 頁下段）³との記載があつて、大変驚いた覚えがあつた。しかるに、その後四十余年もたった今夏（平成 22 年 8 月下旬）、偶然、近藤儀左エ門氏（1902～1993）⁴『生月史稿』（生月町、昭和 42 年 7 月初版刊）のことを知り得た⁵。拝見するに、近藤儀左エ門氏は、近藤博士の令甥に当たられ、往時近藤博士が収集されていた資料を基に、同書を上梓されたとのことであつた⁶。

¹ 加藤一郎（1922～2008）、川島武宜（1909～1992）、来栖三郎（1912～1998）、谷口知平（1906～1989）、柚木馨（1902～1965）「民法学の回顧 座談会」（1～6・完）（『有斐閣 法律学全集 月報』掲載。（1）：昭和 33.9（1958.9）、第 18 回配本；（2）：昭和 33.10（1958.10）、第 19 回配本、（3）：昭和 33.11（1958.11）、第 20 回配本（4）：昭和 33.12（1958.12）、第 21 回配本、（5）：昭和 34.3（1959.3）、第 23 回配本、（6・完）：昭和 34.4（1959.4）、第 24 回配本）⇒「近藤英吉教授」：（1）昭和 33.9（1958.9）、第 18 回配本：我妻栄（1897～1973）・豊島隆（1907～？）『鉱業法』月報 9 頁（柚木馨発言）、（6・完）：昭和 34.4（1959.4）、第 24 回配本木村亀二（1897～1972）『刑法総論』月報 4～5 頁（柚木馨発言）等。なお、今回の再読に当たっては、T 氏の御高配を忝うした。（平成 22 年 10 月 30 日追加）

² 西山伸（1963～）「〈資料紹介〉滝川事件について：牧健二氏・大隅健一郎氏聞き取り」『京都大学大学図書館紀要』第 7 号（平成 21 年 2 月 27 日刊）73 頁によれば、大隅教授は近藤博士と親しかった由である。（平成 22 年 10 月 23 日追加）

〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/70922/1/kua7_55.pdf〉

³ 「教授はなほ専門の法律学の外に在ても歴史の研究に特別の興味を有たれ、特に我が国キリシタン（天主教）の歴史の隠れたる研究者であつた。それは教授の生家がキリシタン渡来史上に著名なる西海の小島生月島なりしことに由来するものの如くである。渡欧の砌にはこの方面に於ける幾多の貴重な文献を蒐集して帰られ、昨秋も病を養ひつつその秘蔵の文献を翻読されてゐるのを屢々見かけたのであつた。不幸にして未だその研究の結果を公にさるに至らなかつたが、筐底深く蔵された遺稿は少くないと考へる。」（128 頁下段）

⁴ 近藤儀左エ門氏（1902.12.11～1993.5.12、92 歳、近藤英吉博士令甥、昭和 52 年 10 月 2 日～同 56 年 10 月 1 日生月町長）〈<http://yattemiyon.net/archive/kakure.html>〉

⁵ HP「毎日新聞社——シリーズ日本の大自然（国立公園全 28 冊+1）「日本の大自然・12・西海国立公園」1994.2——初稿原稿」（平成 22 年 11 月 13 日追加）

〈http://ito-no-kai.la.coocan.jp/300_index/311_national-park/12_saikai.html〉

⁶ 『生月史稿 かくれキリシタンの島生月史』（扉の記載には、何故か「生月史稿 カクレキリシタンの島生月史」とある。）の刊行状況は、下記のとおりである。

・近藤儀左エ門『生月史稿』（生月町、昭和 42 年 7 月刊、昭和 41 年 5 月「まえがき」あり。）（nacsis

このことから、近藤博士について、改めて関心を持ち、その著作年譜を作成したいと考えた。ただ、同博士の御著作については、既に、上記『法学論叢』第43巻第4号129～131頁に「故近藤教授著書論文目録」が掲載されており、今更の感もしないではなかったが、今日的観点から、再調査しておくことも、いささか意味ありかと思ひ、敢えて試みてみた⁷。もとより、これとて、極めて不十分なものではあることから、大方の御示教を得て、今後、逐次補正に務めたいと思う⁸。

webcat に拠る。未見。)

・近藤儀左エ門『生月史稿』（改訂復刻、佐世保・芸文堂、昭和52（1977）年5月15日刊、肥前歴史叢書2、扉記載「改訂版 生月史稿—カクレキリシタンの島生月史—」）（上記昭和42年版との異同不明。「昭和52年春」の「あとがき」あり。定価2,500円）

・近藤儀左エ門『改訂版 生月史稿—かくれキリシタンの島—』（改定[マ]復刻、佐世保・芸文堂、平成2（1990）年11月改訂第3版刊、「平成元年1月」の「あいさつ」あり。（肥前歴史叢書2、扉記載「生月史稿—カクレキリシタンの島生月史—」。定価3,000円）

・近藤儀左エ門『改訂版 生月史稿—かくれキリシタンの島—』（改定[マ]復刻、佐世保・芸文堂、平成10（1998）6月改訂第4版刊。肥前歴史叢書2、扉記載「生月史稿—カクレキリシタンの島生月史—」。定価2,857円＋税）

・以下は、上記『改訂版 生月史稿—かくれキリシタンの島—』（昭和52（1977）年5月15日刊）に拠る。

・5頁「まえがき」：「本稿史料の大部分は、叔父英吉が、幼い時から集めたものでありますが、その死後、原稿散逸のおそれがありましたので、私の方で一応これをまとめ、更に戦後出版された色々な史書を参考にして、原稿に肉付けを試み、ようやく史稿として発刊した次第であります。（中略）この拙稿のどこかで、生月の体感を感じていただけたら、それこそ私の本願とするところであり、本史稿を叔父の墓前に供え得る唯一の理由でもある、と私は思うものであります。」

・7頁：「故京都帝国大学法学部教授 法学博士 近藤 英吉 略」あり。

・8～9頁：「主要参考文献」（中略）以上叔父の主要文献、次いで私は（以下略）

・29～36頁「益富治保先生の御寄稿」29～36頁：「近藤英吉先生が、その明敏な頭脳と旺盛な探究心をもって各方面の資料を渉猟され、広範にわたる生月史を草せられたことは、知る人ぞ知る顕著な事跡である。先生の御逝去後、その草稿は久しく近藤家に保管されてあったが、その甥に当たられる近藤儀左エ門先生が、叔父上の遺稿を出版し、叔父上の貴重な事跡を世に顕彰しようとの志を立てられ、それに加うるに諸種の文献より史実を蒐集され、ここに「生月史稿」として出版されるに至ったことは真に御同慶に耐えないところである。英吉先生の遺された貴重な草稿が、今回世上に公開されるに至った意義を思う時、格好の後継者を得たことはまさに天の配剤であったということをしみじみ痛感させられるのである。（以下略）」（益富治保：元生月町教育長）

⁷ 平成22年9月4日起稿、同10月18日現在で、「初稿」として掲出することとした。

⁸ 近藤博士の雑誌執筆著作については、大半が、『法学論叢』及び『民商法雑誌』に記載されているが、現在、諸般の事情から、『民商法雑誌』に当たることができないことから、取りあえず、このままの形で、初稿（平成22年10月18日現在）としてまとめることとした（その後、平成22年10月30日『民商法雑誌』を一応調査した。）。また、皓星社「雑誌記事索引集成データベース」

（<http://zassaku-plus.com/authorize.php>）中「近藤英吉」検索（平成22年10月16日現在240件）で原典未見のものは、「皓星社 当該番号」を記載した。いずれも、追って、補正の予定でいる。なお、小

2 略年譜

* 近藤英吉（えいきち、1901.7.15～1940.9.14）：

・「ウィキペディア」：

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E8%97%A4%E8%8B%B1%E5%90%89>〉

・〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>〉

* 遺影抄：（平成 22 年 11 月 13 日追加）

・『外国法 現代外国法典叢書だより—No.10,11—』（有斐閣、昭和 13（1938）年 11 月 25 日刊）5 頁（洋装）

・「故京都帝国大学教授法学博士近藤英吉君肖像」『法学論叢』第 43 卷第 4 号（昭和 15 年 10 月 1 日刊）（和装）

・『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊）120 頁（和装）

・京都大学大学文書館 HP 〈<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>〉（平成 29 年 10 月 29 日追加）

「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象: 1949 年以前の在職者 [旧制] 一）」

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000400>〉

* 「執筆者紹介 こんどうえいきち 近藤英吉氏略歴」

『外国法 現代外国法典叢書だより—No.10,11—』（有斐閣、昭和 13（1938）年 11 月 25

日刊）5～6 頁に、次のものあり。5 頁に肖像、「執筆に当りて」、6 頁に「執筆者紹介 こんどう

えいきち 英吉氏略歴」。以下、再録しておく。

こんどうえいきち
「近藤英吉氏略歴

明治 34 [1901] 年 7 月 15 日、玄海の孤島、長崎県北松浦郡生月島に生る。

長崎県立平戸中学猶興館 [正しくは長崎県立中学猶興館か?] を卒業後、第一高等学校を経て、京都帝国大学法学部に入学し、大正 14 [1925] 年 3 月卒業す。その間大正 13 [1924] 年高等試験司法科に合格す。

卒業後直に法学部助手に任ぜられ、昭和 2 [1927] 年 3 月助教授となり、昭和 3 [1928] 年より昭和 5 [1930] 年 4 月に至る満二ヶ年間独、仏、両国に留学す（文部省在外研究員として）。

谷野敦氏（1962～）の著名ブログ「猫を償うに猫をもってせよ」 〈<http://d.hatena.ne.jp/jun-jun1965/>〉
平成 22 年 10 月 13 日分「国会図書館よ・・・」参照。

昭和 9 [1934] 年 3 月教授に任ぜられ民法学の講座を担当す。尚昭和 11 [1936] 年度より 13 [1938] 年度に互て高等試験行政科臨時委員（民法担当）を拝命す。

著書、夫婦財産法の研究、相続法の研究、債権各論、物権法論、註釈日本民法（総則と債権総則及び契約総則の全部）、相続法論（上、下）、判例遺言法、民法要義等。

論文、判例研究等は、殆んど法学論叢と民商法雑誌に発表しあり。

現住所 京都市左京区北白川下池田町 92

* 『法律時報』第 12 巻第 10 号（昭和 15 年 10 月 1 日刊）83 頁「学界彙報」

「○京都帝大法学部教授近藤英吉氏は [昭和 15 年] 九月十四日死去され、同日附を以て法学博士の学位 [学位論文『相続法論』] を授与された。」（平成 22 年 10 月 30 日追加）

* 『法学論叢』第 43 巻第 4 号（昭和 15 年 10 月 1 日刊）

（表紙に、「故京都帝国大学教授法学博士近藤英吉君肖像並弔辞」、「雑報 故近藤教授葬儀その他」の記載あり。巻頭：「故 京都帝国大学教授 法学博士 近藤英吉君肖像」、「弔辞 昭和 15 年 9 月 22 日 京都帝国大学法学部長 法学博士 石田文次郎(1892～1979)」。雑報(124～131 頁)：「○近藤教授逝去」記事あり。「弔辞：友人総代 田島順(1894～1966)」、「弔辞：門弟一同に代はりて 於保不二雄(1908～1996)」、「噫近藤教授：大隈健一郎(1904～1998)」、「故近藤教授著書論文目録」)

・弔 辞（巻頭）

「 弔 辞

昭和十五年九月十四日京都帝国大学教授従四位勲四等法学博士近藤英吉君溘焉として長逝す 嗚呼哀しい哉

君は大正十四年本学に業を卒へ直に研究助手として民法学を専攻し昭和二年京都帝国大学助教授に任ぜられ同年欧米に留学し同五年帰朝後民法講座を担当し昭和九年京都帝国大学教授に任ぜられ今日に及べり

君資性醇厚にして明敏其の学究生活に於けるや鋭意学理の研鑽に身命を賭し民法に関する全領域に亘る研究の成果を学界に寄与され殊に相続法に関する君が学識に就ては我が国斯界の權威として学界の均しく認むる処なり

今や世界情勢の変転と共に法律学も其の轉換期に立たんとするに際し将来我が民法学界は君の鋭利なる学才に依る理論の展開を期待 / （改頁）し君亦勇躍其の準備に専心せしに突如病を得て再び起つ能はざるに至れるは我が国学界の重大なる損失として洵に痛恨に堪えず吾等一同只管君の恢復の速かならん事を祈りしに天爰ぞ無情なるや 病数旬にして今や君と幽明其の境を異にするに至るとは一同茫然として声なし 嗚呼哀しい哉

君の本学部の教職に在る事十有五年其の期長からずと雖も君が子弟に及ぼせる熱意ある薫化は洵に大にして又同僚知己に致せる君の親愛の情は実に密なるものあり吾等一同君の早逝を悼むや甚だ切なり 哀惜の情爰ぞ堪えん

爰に法学部教官一同に代り蕪辞を綴り謹みて敬弔の誠意を表す

昭和十五年九月二十二日（原文は細字）

京都帝国大学法学部長

法学博士 石田文次郎

・雑報（124～131 頁）

「○近藤教授逝去 [124 頁]

其の明朗快活なる性格と魅力ある講義とを以て同僚友人学生に最も敬愛せられたる近藤教授は [昭和十五年] 九月十四日東京に於て逝去された。実は教授は昨秋来病臥中であつたが、此の四月には恢復されて再び其の元気な姿を講壇に現され一同愁眉を開いてみたのである。然るに不幸旅先きで病氣再発し再び立たれなかつたことは誠に哀惜に堪へない。行年四十であつた。

教授の訃報 天聴に達するや、畏れ多くも幣帛並に祭糝料を下賜せられ、又従四位に叙せらるる旨の恩命ありたりと承る。

告別式は二十二日午後二時より故人の意思により本学法学部第十教室に於て神式により執行された。関係者多数参列の裡に羽田 [亨、1882～1955] 総長・石田 [文次郎] 法学部長・法学会・有信会 [法学部同窓会]・友人総代、門下生代表の弔辞があり、又多数の弔電が寄せられた。数多き会葬者の中に、特に朝鮮・九州其の他遠隔の地から馳せつけた幾十人もの愛弟子諸氏の悲痛な面が目立つてゐた。

左に友人総代及門下生代表の弔詞を録する。

弔 辞 [124～125 頁]

（未入力：友人総代 田島順（1894～1966））

弔 辞 [125～126 頁]

（未入力：門弟一同に代はりて 於保不二雄（1908～1996））

噫近藤教授 [126～129 頁]

（未入力：大隈健一郎（1904～1998））

「故近藤教授著書論文目録」 [129～131 頁]（未入力）

* 『京都帝国大学新聞』第 319 号「近藤教授逝く 親族相続法の権威」

「近藤教授逝く 親族相続法の権威」『京都帝国大学新聞』第 319 号（昭和 15 年 10 月 5 日〈土〉刊）第 1 面 8～10 段（『京都大学新聞復刻版』第 2 巻〈京都大学新聞社、昭和 44 年 7 月 10 日刊〉597 頁、肖像あり。）

「近藤教授逝く 親族相続法の権威（肖像：省略）わが国 親族法相続法の権威として民法学に重きをなしてゐた本学法学部教授従四位勲四等法学博士近藤英吉氏はかねて糖尿病を患ひ東京市豊島区西巢鴨の義父遠藤隆吉博士宅で療養中のところ、九月十四日逝去享年四十教授の訃報天聴に達するや畏れ多くも幣帛並に祭糝料を下賜せられ、又従四位に叙せらるる旨の恩命あつたと承はる、告別式は [九月] 二十二日本学法学部第十教室で神式により執行せられた。[改行 細字] 教授は長崎県の人、大正十四年三月本学法学部法律学科を卒業昭和二年助教授となり、翌三年民法研究のため海外留学の途に上り主として独

逸及び仏蘭西に遊学帰朝後民法講座を担当、昭和九年教授となり、稀に見る情熱を以つて民法の研鑽と教授に当り学界に不滅の功績を残した 教授はまた学外においても昭和十一年以来高文試験委員として精励し我国の立法事業にも貢献するところ頗る大であつた 民法中にて比較的未開至難の分野たる親族相続法を専攻、渡欧に先たちて「夫婦財産法の研究」を世におくり、渡欧中の成果を「相続法の研究」として発表、古くはゲルマン新しくは近代諸国の夫々の固有の相続法を概観するとともに我国固有の制度たる生前相続の特色を究むるなど独自の研究を発表し、その他「註釈日本民法総則編」、「註釈日本民法債権編総則」「同債権契約総則」と相次いで上梓学界並びに実際界に裨益するところ甚大であつた、余りにも早く今急に教授を失つたことはまことに哀惜に堪へない（写真はありし日の教授）」（訃報全文のみ平成 22 年 11 月 1 日追加）

* 『京都大学百年史 部局史編 1』（京都大学後援会、平成 9 年 9 月 30 日刊）333～335 頁

〈http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/retrieve/sr_bookview.cgi/BB00000052/Body/4_2_3.html〉

「昭和 5（1930）年以降は助教授近藤英吉（1901～40）が講義を分担した。昭和 8（1933）年に末川 [博、1892～1977] が退官し、中島 [玉吉、1875～1960]、近藤（昭和 9（1934）年教授に昇任）のほか、新任の教授石田文次郎（1892～1979）、教授田島順（1894～1966）が各講座の担任となった。昭和 10（1935）年中島が停年退官し、また昭和 15（1940）年に近藤が死去した後、石田、田島のほか、助教授於保不二雄（1908～（1996）、昭和 18（1943）年教授に昇任）により講義が分担され、終戦を迎えた。」

「さらに、若くして死去した近藤も、『相続法論』上下（1936、1938 年）のほか、『註釈日本民法（総則・債権総論・契約法）』（1932、1934～36、1937 年、いずれも共著）など多数の著作を通じて、理論的に徹底した法解釈論を展開している。

田島には、『民法一九二条の研究』（1933 年）のほか多くの著作がある。」

* 『京都大学百年史 資料編 3』（財京都大学教育研究振興財団、平成 13 年 3 月 21 日刊）

「第 4 編 一覧・統計 4 主要人事一覧（7）教員

〈http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/retrieve/sr_bookview.cgi/BB00000057/Body/4-04-07-04.html〉

204 頁：「こ 近藤英吉 助教授：1927. 3.31－1934. 3.30 教授：1934. 3.31－1940. 9.14」、937 頁：総索引

* 京都大学大学文書館 HP 〈<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>〉（平成 29 年 10 月 29 日追加）

「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象：1949 年以前の在職者 [旧制] —）」で検索

<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>

<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000400>

3 著作目録

(1) 著書

昭和3(1928)年

・夫婦財産法の研究(巖松堂書店、昭和3年5月15日刊)

(序:「本書は、私が過去二ヶ年間に、法学論叢誌上に発表したものを、骨子として、夫婦財産法の諸問題を、纏めしものである。」。第1章 緒論 1~5頁、第2章 法史的概観 6~134頁、第3章 諸国立法例概観 135~190頁、第4章 吾民法に於ける夫婦財産法概観 191~268頁、第5章 妻の日常家事代理権 269~348頁、第6章 夫婦財産契約 349~380頁) (定価:3円50銭)

(昭和3(1928)年3月~昭和5(1930)年4月在外研究)

昭和7(1932)年

・相続法の研究(弘文堂書房、昭和7年8月10日刊)

(巻頭:「本書は私が最近法学論叢誌上に発表した相続法に関する論文を(多少補充して)集めたものである。」。第1 ゲルマン固有の相続法—特にザクセンスピーゲルを通じて— 1~100頁、第2 近代諸国に於ける相続法概観 101~131頁、第3 死体に就て 132~160頁、第4 死者の権利に就て 161~202頁、第5 遺留分 203~287頁、第6 自筆証書に依る遺言の方式 288~294頁、第7 生前相続の特質 295~316頁、第8 国籍喪失に因る家督相続 317~344頁) (菊版クロス装、定価:2円50銭)

(調査中:以下の2論文は、『相続法の研究』で初出か? 第2 近代諸国に於ける相続法概観(『相続法の研究』101~131頁)、第7 生前相続の特質(『相続法の研究』295~316頁))

【書評】中川善之助(187~1975)「近藤教授の近業「相続法の研究」」『法律時報』第4巻第11号(昭和7年11月1日刊)51~53頁(「新刊批評」)

・註釈日本民法(総則編)(巖松堂書店、昭和7年12月20日刊)(定価:4円80銭)

【書評】三木正雄(?~?)「近藤英吉氏『註釈日本民法(総則編)』」『長崎高商研究館彙報』第22巻第7号(長崎高等商業学校研究館、昭和9年9月1日刊)37~46頁(「国立国会図書館のデジタル化資料」に拠る。皓星社86参照。あるいは、下記と同じものか。)(平成24年2月20日一部修正)

【書評】三木正雄『法学論叢』第31巻第5号(昭和9年11月1日刊)131~138頁(批評と紹介)(三木教授は、文中で、「恩師近藤教授は」といっている。)

(昭和 8 (1933) 年 5 月 京大事件 (瀧川事件) 発生)

昭和 8 (1933) 年

- ・債権法各論 (弘文堂書房、昭和 8 年 11 月 20 日刊) (菊版クロス装、定価: 1 円 80 銭)
【書評】三木正雄 (? ~?) 「近藤英吉氏著『債権法各論』」『長崎高商研究館彙報』
第 23 卷第 7 号 (長崎高等商業学校研究館、昭和 10 年 9 月 1 日刊) 20~29 頁 (「国立国会図書館のデジタル化資料」に拠る。) (平成 24 年 2 月 20 日追加)

昭和 9 (1934) 年

- ・註釈日本民法 (債権編総則) 上巻 (近藤英吉、柚木馨共著、巖松堂書店、昭和 9 年 5 月 5 日刊) (定価: 3 円)
【書評】田島順 (1894~1966) 『法学論叢』第 31 卷第 1 号 (昭和 9 年 7 月 1 日刊)
100~105 頁 (批評と紹介)
- ・物権法論 (弘文堂書房、昭和 9 年 9 月 25 日刊) (菊版クロス装、定価: 1 円 80 銭)

昭和 10 (1935) 年

- ・註釈日本民法 (債権編総則) 中巻 (近藤英吉、柚木馨共著、巖松堂書店、昭和 10 年 9 月 15 日刊) (定価: 3 円 80 銭)
【書評】 (新刊紹介) 『民商法雑誌』第 2 卷第 5 号 (昭和 10 年 11 月 1 日刊) 164 頁 (平成 22 年 10 月 30 日追加)

昭和 11 (1936) 年

- ・相続法論 (上) (弘文堂書房、昭和 11 年 4 月 25 日刊、同年 5 月 20 日再版) (菊版背革、定価: 4 円) (上、下で学位論文 (昭和 15 年 9 月 14 日授与))
- ・註釈日本民法 (債権編総則) 下巻 (田島順、柚木馨、伊達秋雄、近藤英吉共著 巖松堂書店、昭和 11 年 5 月 25 日刊) (定価: 3 円 80 銭)
【書評】 (新刊紹介) 『民商法雑誌』第 4 卷第 1 号 (昭和 11 年 7 月 1 日刊) 239~240 頁 (平成 22 年 10 月 30 日追加)
- ・相続法 (1)、(2)、(3・完) (日本評論社版新法学全集、(1): 昭和 11 年 8 月第 3 回配本 [皓星社 122 に拠る。]、(2): 昭和 11 年 9 月第 4 回配本 [皓星社 116 に拠る。]、(3・完): 昭和 11 年 10 月第 5 回配本 [皓星社 117 に拠る。]、所属巻数第 12 卷民法 V、(3・完) の帝国図書館納本年月日: 昭和 11 年 10 月 9 日。)

昭和 11 (1936) 年~昭和 14 (1939) 年

- ・民法大綱 [総則] 1 (至 5) (1: 巖松堂書店、昭和 11 年 6 月 10 日刊) (定価 90 銭)
(「本書は、私が嘗て公けにした註釈日本民法総則編を、教科書風に書きかへたもの」(昭和 11 年 5 月 25 日「序」))
- ・民法大綱 [総則] 2 (巖松堂書店、昭和 11 年 9 月 20 日刊) (定価 70 銭)

- ・民法大綱〔総則〕3（巖松堂書店、昭和11年11月15日刊）（定価65銭）
- ・民法大綱〔総則〕4（巖松堂書店、昭和12年9月15日刊）（定価1円30銭）
- ・民法大綱〔総則〕5（巖松堂書店、昭和14年11月20日刊）（定価90銭）

昭和12（1937）年

- ・改訂物権法論（弘文堂書房、昭和12年4月25日刊）（菊版クロス装、定価：3円）
- ・註釈日本民法（債権編契約総則）（田島順、柚木馨、川上太郎、三木正雄、伊達秋雄、近藤英吉共著、巖松堂書店 昭和12年12月10日刊）（定価：5円）
（参考）
- ・民法相続法（京大法学部プリント、近藤教授述、編輯兼発行者：小松原 碧、発行所：プリント社、昭和12年2月10日刊）（注記 謄写版 国立国会図書館所蔵）

昭和12（1937）年～昭和13（1938）年

- （参考）
- ・家族制度全集 第1部 第1-5巻、第2部 第1-5巻（河出書房、昭和12～13年刊）（日本図書センター復刻、平成21（2009）年5月刊『家族制度全集』（全10巻）
〈<http://www.nihontoshu.co.jp/2009/05/post-53.html>〉⇒「（2）論説その他」を参照。

昭和13（1938）年

- ・民法要義 全（松華堂書店、昭和13年4月10日刊）（定価：7円50銭）
【書評】 林信雄（1905～1995）『同志社論叢』第60号（昭和13年6月刊）（未見、皓星社190）
- ・親族法講義要綱（弘文堂書房、昭和13年4月25日刊）（菊版布製、定価：1円80銭）
- ・判例遺言法（有斐閣、昭和13年4月25日刊、昭和13年6月1日再版）
【書評】 法律時報第10巻第7号（昭和13年7月1日刊）（??）
- ・相続法論（下）（弘文堂書房、昭和13年9月25日刊）（菊版背革、定価：5円50銭）
（上、下で学位論文（昭和15年9月14日授与））

昭和13（1938）年～昭和17（1942）年

- ・現代外国法典叢書 独逸民法〔IV〕親族法（田島順、近藤英吉共著、有斐閣、（1）昭和13年5月25日刊、（2）昭和13年8月25日刊、（3）昭和13年10月25日刊、（4）昭和13年11月25日刊、（5）昭和16年4月30日刊、（6）昭和16年8月31日刊、（7）昭和16年12月6日刊、（8・完）昭和17年9月15日刊（はしがき 田島 順、昭和17年6月）⇒昭和30年8月30日復刊版刊）

昭和14（1939）年

- ・現代外国法典叢書 独逸民法〔V〕相続法（有斐閣、（1）（1～48頁）昭和14年1月25日刊、（2）（49～152頁）昭和14年2月25日刊、（3）（153～216頁）昭和14年

3月25日刊、(4) (217~272頁) 昭和14年4月25日刊、(5) (273~336頁) 昭和14年5月25日刊、(6) (337~416頁) 昭和14年8月25日刊、(7・完) (417~468頁) 昭和14年9月25日刊 ⇒昭和30年7月30日復刊版刊)

(参考) 「執筆に当りて」『外国法 現代外国法典叢書だより—No.10,11—』(有斐閣、昭和13(1938)年11月25日刊)5頁(「/」は改行を示す。平成22年11月13日全文入力)

「私は、本叢書の内、独逸の夫婦財産制と相続法とを執筆することになつてゐる。/ 我国では、既に臨時法制審議会の決議に基いて、大正十四年に親族編中改正要綱三十四項が、次いで、昭和二年に相続編中改正要綱十七項が発表されてゐるが、未だ親族法相続法の改正事業は余りにも進捗してゐない模様であり、又数多い民法学者の中でも改正私案らしいものを公表してゐる方もないやうである。併し、それは無理からぬことである。苟くも一国の大法典たる親族法及び相続法の改正事業は、性急に成し遂げ得るものではない。充分に我国固有の法制を探究し且つ諸外国に於ける古今の諸法制を比較研究してこそ、達成せられる事業に外ならぬ。/ 独逸では、ナチス政権の確立して以来、着々として、親族法及び相続法の修正事業が進捗し、既に婚姻及び離婚に関する改正法や、遺言の作成及び相続契約の締結に関する改正法が發布され、且つ実施されてゐる。併し、比較的短い年月ではあるが、之等の改正法が制定される迄の間には、多くの学者によつて真剣にして而かも精緻な研究が行はれたのであることを指摘して置き度い。/ 私が本叢書の執筆を引受けたのはただ独逸の法制を紹介する目的だけに止るのではない。来るべき我親族法及び相続法の改正事業の一助にもなれかしとの念願に出づるのである。」

・親族法・相続法(法律学全書 第11、三笠書房、昭和14年4月18日刊) (定価:1円)

昭和15(1940)年

・相続法(新法学全集第15巻〈戒能通孝(1908~1975)『無尽法』とで一冊〉)(上記昭和11年のものの新装版か。日本評論社、昭和15(1940)年5月1日刊) (予約価:2円50銭)

(参考)

・京都帝国大学教授・高等試験委員 近藤英吉教授述『民法演習 最近四ヶ年間抜萃』(京大受験研究会編、刊行年月日不明。66頁。例えば、国立国会図書館所蔵本には、「衆議院図書館 15.6.20」の日付印がある。)

昭和30(1955)年

・現代外国法典叢書(5) (神戸大学外国法研究会) 独逸民法〔V〕相続法(近藤英吉、補遺 福地陽子、柚木馨「復刊のはしがき」)(復刊版、有斐閣、昭和30年7月30日刊) (旧版: 第1~7回配本、昭和14年1~9月刊)

・現代外国法典叢書(4) (神戸大学外国法研究会) 独逸民法〔IV〕親族法(田島順、近藤英吉、補遺 福地陽子)(復刊版、有斐閣、昭和30年8月30日刊) (旧版: 第1~8回配本、昭和13年月~昭和17年9月刊)

平成 21 (2009) 年

・ (参考) 『家族制度全集』 (全 10 巻) (日本図書センター復刻、平成 21 (2009) 年 5 月 25 日刊。詳細は、「論説その他」昭和 13 年分参照。)

〈<http://www.nihontosho.co.jp/2009/05/post-53.html>〉

(参考 HP) (平成 23 年 1 月 1 日追加)

* 清水恵介教授 HP 〈<http://homepage1.nifty.com/ksk-s/index.html>〉

「著作権切れ民法論文一覧表」: 〈<http://homepage1.nifty.com/ksk-s/rfk2.html>〉

(2) 論説その他

大正 15/昭和元 (1926) 年

・ ゲルマン法に於ける夫婦財産関係 (1)、(2) 『法学論叢』第 15 巻第 5 号 (大正 15 年 5 月 1 日刊) 67~95 頁、第 6 号 (大正 15 年 6 月 1 日刊) 127~152 頁 ⇒ 『夫婦財産法の研究』「第 2 章 法史的概観」6~70 頁

・ ザクセンスピーゲルを中心として見たる妻の財産法上の地位 『法学論叢』第 16 巻第 6 号 (大正 15 年 12 月 1 日刊) 113~139 頁 ⇒ 『夫婦財産法の研究』「第 2 章 法史的概観」70~103 頁

昭和 2 (1927) 年

・ ゲルマン法に於ける夫婦共産主義 『法学論叢』第 17 巻第 1 号 (大正 16 (昭和 2) 年 1 月 1 日刊) 144~170 頁 ⇒ 『夫婦財産法の研究』「第 2 章 法史的概観」103~170 頁

・ 所謂「危険負担」に関する疑問—芸妓の前借金返還の要否— 『法学論叢』第 17 巻第 5 号 (昭和 2 年 5 月 1 日刊) 119~142 頁

・ 妻の日常家事代理権 (1)、(2)、(3・完) 『法学論叢』第 18 巻第 2 号 (昭和 2 年 8 月 1 日刊) 71~94 頁、第 4 号 (昭和 2 年 10 月 1 日刊) 100~119 頁、第 6 号 (昭和 2 年 12 月 1 日刊) 93~114 頁 ⇒ 『夫婦財産法の研究』「第 5 章 妻の日常家事代理権」269~348 頁

(参考)妻の日常家事代理権 ⇒老川寛 監修『家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇』第 12 巻 (クレス出版、平成 13 年 1 月?日刊)に収録との由 (未見) (平成 22 年 10 月 23 日追加)

・ 五円結納 『法律春秋』第 2 巻第 9 号 (南郊社、昭和 2 年 9 月 1 日刊) 54~55 頁 (「国立国会図書館のデジタル化資料」に拠る。) (平成 24 年 2 月 20 日追加)

昭和 3 (1928) 年

・ 夫婦財産契約否認論 『法学論叢』第 19 巻第 2 号 (昭和 3 年 2 月 1 日刊) 42~68 頁 ⇒ 『夫婦財産法の研究』「第 6 章 夫婦財産契約」349~380 頁

(昭和3(1928)年3月～昭和5(1930)年4月 在外研究)

昭和5(1930)年

・ゲルマン固有の相続法—特にザクセンスピーゲルを通じて—(1)、(2・完) 『法学論叢』第24巻第3号(昭和5年9月1日刊)19～57頁、第5号(昭和5年11月1日刊)82～110頁 ⇒『相続法の研究』1～100頁 未見

昭和6(1931)年

・ゲルマン法に於ける相続期待権 『春木先生還暦祝賀論文集』(春木一郎:1870～1944、有斐閣、昭和6年1月10日刊)289～320頁
・遺留分(1)、(2・完) 『法学論叢』第25巻第3号(昭和6年3月1日刊)34～57頁、第4号(昭和6年4月1日刊)31～66頁 ⇒『相続法の研究』203～287頁
・〔批評と紹介〕ゲール教授、生命保険契約と夫婦財産の分離 『法学論叢』第26巻第1号(昭和6年7月1日刊)137～143頁
・死体に就て—死者の権利に関する—考察 『法学論叢』第26巻第5号(昭和6年11月1日刊)33～54頁 ⇒『相続法の研究』132～160頁
・〔批評と紹介〕瑞典改正遺言法 『法学論叢』第26巻第5号(昭和6年11月1日刊)167～171頁

昭和7(1932)年

・死者の権利に就て 『法学論叢』第27巻第1号(昭和7年1月1日刊)29～61頁(元は昭和6年11月7日京都帝国大学法学会での講演、『法学論叢』第26巻第6号166～168頁「京都帝国大学法学会大会記事」参照。) ⇒『相続法の研究』161～202頁
・〔批評と紹介〕フオイヤーシュタイン最近の諸立法に於ける妻の家事代理権 『法学論叢』第27巻第3号(昭和7年3月1日刊)127～133頁
・国籍喪失に因る家督相続 『法学論叢』第28巻第1号(昭和7年7月1日刊)70～99頁 ⇒『相続法の研究』317～344頁
・〔批評と紹介〕メリハー、姦婦殺しの権利 『法学論叢』第28巻第1号(昭和7年7月1日刊)149～151頁

昭和8(1933)年

・〔批評と紹介〕妻に対する夫の訴訟費用前払義務 『法学論叢』第29巻第2号(昭和8年2月1日刊)144～148頁
・扶養の義務—特に法定相続権との関連に就て— 『法学論叢』第29巻第4号(昭和8年4月1日刊)38～65頁(山岡龍次助教授(1904～1932)の思い出とともに、「本稿起草中に私の老父も亦死亡した。」の記載あり。)

(昭和8(1933)年5月京大事件(瀧川事件)発生。昭和8年7月～12月『法学論叢』休刊。京大事件に拠る。『法学論叢』第30巻第1号(昭和9年1月1日刊)巻頭に再刊の「会告」あり。)

昭和9(1934)年

・相続回復請求権と表見相続人の地位 『法学論叢』第30巻第2号(昭和9年2月1日刊)1～43頁

【書評】於保不二雄(1908～1996)『法律時報』第6巻第4号(昭和9年4月1日刊)50～51頁(「雑誌論文月評」。於保不二雄『民法著作集Ⅱ 家族法』(新青出版、平成17年10月20日刊)391～393頁に再録。)

・実定法上より見たる相続の根拠 『遠藤先生華甲寿記念論文集』(遠藤隆吉博士還暦記念会、昭和9年11月23日刊)363～375頁(遠藤隆吉:1874～1946、近藤博士の岳父)

(昭和10(1935)年1月1日、『民商法雑誌』創刊、第1巻第1号刊行、6号で1巻)

昭和10(1935)年

・死後処分の限界と遺言の内容 『法学論叢』第32巻第2号(中島博士還暦祝賀記念号、昭和10年2月1日刊、中島玉吉:1875～1960)351～392頁

・寡婦の相続権一特にゲルマン法を通じて 『法学論叢』第33巻第6号(昭和10年12月1日刊)1～43頁

・(判例総合研究)家督相続人の指定に就て 『民商法雑誌』第2巻第6号(昭和10年12月1日刊)47～72頁

昭和11(1936)年

・(判例総合研究)養子の家督相続権に就て 『民商法雑誌』第3巻第1号(昭和11年1月1日刊)59～76頁

・相続の承認及び拋棄(1)、(2・完) 『法学論叢』第34巻第4号(昭和11年4月1日刊)1～46頁、第34巻第6号(昭和11年6月1日刊)32～71頁

・(判例総合研究)相続の限定承認の効力(1)、(2・完) 『民商法雑誌』第4巻第1号(昭和11年7月1日刊)51～75頁、第4巻第2号(昭和11年8月1日刊)82～97頁

・共同相続の本質と営業の共同相続 『法学論叢』第35巻第2号(烏賀陽博士還暦祝賀記念号、昭和11年8月1日刊、烏賀陽然良:1876～1946)372～393頁

【書評】木村健助(1894～1979)『法律時報』第8巻第10号(昭和11年10月1日刊)47～48頁(「雑誌論文月評」)

・公正証書に依る遺言に就て 『日本公証人協会雑誌』(日本公証人協会)第15号(通冊)(昭和11年8月15日刊)3～18頁(皓星社105参照。)(平成22年11月13日一部補正)

(参考) 柚木馨 (1902~1965) 「判例より見たる仮登記の効力」 『日本公証人協会雑誌』 (日本公証人協会) 第 15 号 (通冊) (昭和 11 年 8 月 15 日刊) 19~35 頁 (平成 22 年 11 月 13 日追加)

昭和 12 (1937) 年

- ・ (判例総合研究) 自筆証書に依る遺言に就て 『民商法雑誌』 第 5 卷第 2 号 (昭和 12 年 2 月 1 日刊) 69~88 頁 (平成 22 年 10 月 30 日一部修正)
- ・ 相続の承認又は拋棄前に於ける相続人の地位と相続財産 『法学論叢』 第 36 卷第 3 号 (昭和 12 年 3 月 1 日刊) 38~76 頁
- ・ (三谷道麿と共著) 相続税法改正案を評す 『法学論叢』 第 36 卷第 3 号 (昭和 12 年 3 月 1 日刊) 124~149 頁
- ・ (判例総合研究) 遺贈に就て (1)、(2・完) 『民商法雑誌』 第 6 卷第 1 号 (昭和 12 年 7 月 1 日刊) 44~74 頁、第 6 卷第 2 号 (昭和 12 年 8 月 1 日刊) 114~146 頁 (平成 22 年 10 月 30 日一部修正)
- ・ 遺言執行者ある場合に於ける相続人の処分行為 『民商法雑誌』 第 6 卷第 4 号 (論説、昭和 12 年 10 月 11 日刊) 18~33 頁 (平成 22 年 10 月 30 日一部修正)

昭和 13 (1938) 年

- ・ 財産分離制度とその修正 (1)、(2・完) 『法学論叢』 第 38 卷第 1 号 (昭和 13 年 1 月 1 日刊) 23~47 頁、第 38 卷第 2 号 (昭和 13 年 2 月 1 日刊) 130~152 頁
- ・ 隠居 『家族制度全集』 第 2 部 法律篇 第 4 卷 家 (河出書房、昭和 13 年 1 月 20 日刊) 155~182 頁 ⇒ 復刻版 (10 卷セット、第 9 卷 法律篇 家、日本図書センター、平成 21 年 5 月 25 日刊)
- ・ 相続史概説 『家族制度全集』 第 1 部 史論篇 第 5 卷 相続 (河出書房、昭和 13 年 2 月 20 日刊) 1~35 頁 ⇒ 復刻版 (10 卷セット、第 5 卷 相続、日本図書センター、平成 21 年 5 月 25 日刊)
- ・ 限定承認 『家族制度全集』 第 2 部 法律篇 第 5 卷 相続 (河出書房、昭和 13 年 2 月 20 日刊) 143~175 頁 ⇒ 復刻版 (10 卷セット、第 10 卷 法律篇 相続、日本図書センター、平成 21 年 5 月 25 日刊)
- ・ [批評と紹介] 民事局長通牒『軍人ノ婚姻届出ニ関スル件』 『法学論叢』 第 38 卷第 3 号 (昭和 13 年 3 月 1 日刊) 191~195 頁
- ・ 執筆に当りて 『外国法 現代外国法典叢書だより—No.10,11—』 (有斐閣、昭和 13 (1938) 年 11 月 25 日刊) 5 頁
- ・ [批評と紹介] 独逸の新遺言法 『法学論叢』 第 39 卷第 6 号 (昭和 13 年 12 月 1 日刊) 134~148 頁

昭和 14 (1939) 年

- ・ 相続人の責任制度とその修正 『法学論叢』 第 40 卷第 1 号 (巻頭に「京都帝国大学教

- 授法学博士齋藤常三郎君（1878～1951）肖像」あり。昭和14年1月1日刊）1～49頁
- ・相続法修正の目標—家庭本位又は扶養本位の相続制度の確立— 『法学論叢』第41巻第1号（昭和14年7月1日刊）31～57頁
 - ・遺言及び遺留分法の修正 『法学論叢』第41巻第2号（昭和14年8月1日刊）1～34頁
 - ・（判例総合研究）胎児の法律上の地位 『民商法雑誌』第10巻第4号（昭和14年10月1日刊）（通頁：48～73頁）（平成22年11月1日、同11月18日一部修正）

昭和15（1940）年

（『法学論叢』第42巻〈昭和15年1～6月刊〉には執筆なし。）

- ・法定相続法修正私案（1） 『法学論叢』第43巻第1号（昭和15年7月1日刊）1～27頁
- ・法定相続法修正私案（2）（未完） 『法学論叢』第43巻第2号（昭和15年8月1日刊）29～46頁（絶筆の由）

（未確理論稿）

- * 『法学論叢』第43巻第4号（昭和15年10月1日刊）所収「故近藤教授著書論文目録」（129～131頁）に掲載のもので未確認の論稿
- ・実定法上より見たる相続の根拠 『巣鴨高等商業学校記念論文集』（⇒前掲「実定法上より見たる相続の根拠」『遠藤先生華甲寿記念論文集』（遠藤隆吉博士還暦記念会、昭和9年11月23日刊）363～375頁のことか、あるいは、同論説を再掲した記念論文集が別に刊行されているのか？。遠藤隆吉：1874～1946、近藤博士岳父、巣鴨学園創設者。
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%A0%E8%97%A4%E9%9A%86%E5%90%89>)
- ・表見的相続事実と相続証書—相続法の改正に関する一提案— 「『跡部先生追悼論文集』に掲載の予定」（跡部定次郎博士（1872～1938）関係のものであるが、同書は未刊か？。）

(3) 判例研究⁹

昭和7（1932）年

- ・民事判例研究 6 自筆証書に依る遺言書の日附 昭和7年6月10日大審院第二民事部判決（民事判例集第10巻第10号736頁以下） 『立命館学叢』第3巻第10号（昭和7年

⁹ * 『民商法雑誌』収録の「総合判例研究」関係論稿は、「(2) 論説その他」に掲載した。

* 「判例研究文献目録」：近藤英吉『相続法論（下）』（弘文堂書房、昭和13年9月25日刊）巻末所載のものは次のとおりである（前方24、50以下は、文献番号を示す。例えば、「24-6頁上段」は、文献番号24は6頁上段に記載の意。）。それぞれ当該判例研究論稿に「判例研究文献目録」として記載しておいた。24-6頁上段、50-7頁下、74-9頁上、79-9頁上、96-10頁上、109-11頁上、125-11頁下、131-12頁上、134-12頁上、136-12頁上、140-12頁下、171-14頁下、176-15頁上、179-15頁下、181-15頁上、199-17頁上、207-17頁下。

6月1日刊) 88～95頁(「判例研究文献目録」179) (平成22年10月30日追加)

・雑報 諸学会 民法座談会 昭和7年9月23日 近藤英吉「妻の財産の管理と夫の代理権」(大判民集第10巻第9号) 『法学論叢』第28巻第5号(昭和7年11月1日刊) 180頁

・民事判例研究? 妻の財産の管理と夫の代理権 『立命館学叢』第4巻第4号(昭和7年11月1日刊)? ～? 頁(未見) (平成22年10月30日追加)

〈<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/somokuji/kiyo.pdf>〉

〈<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/somokuji/jnamebetu.pdf>〉 各参照。

昭和8(1933)年

・雑報 諸学会 民法座談会 昭和7年11月12日 近藤英吉「カール・ルードウィヒ・プロエンター「妻に対する夫の訴訟費用前払義務」」 『法学論叢』第29巻第1号(昭和8年1月1日刊) 134頁

・雑報 諸学会 民法座談会 昭和8年3月24日 近藤英吉「胎児の損害賠償請求権—胎児の為め為したる和解の効力」(大判民集第11巻第20号) 『法学論叢』第29巻第5号(昭和8年5月1日刊) 178頁

・民事判例研究 36 胎児の損害賠償請求権と賠償の為為したる和解の効力 昭和7年10月6日大審院第一民事部判決(大審院判例集第11巻第20号2023頁以下) 『立命館学叢』第4巻第10号(昭和8年6月1日刊) 83～91頁(平成22年10月30日追加)

(昭和8(1933)年5月 京大事件(瀧川事件)発生。昭和8年7月～12月『法学論叢』休刊。京大事件に拠る。『法学論叢』第30巻第1号(昭和9年1月1日刊)巻頭に再刊の「会告」あり。)

昭和9(1934)年

(1～6月分)

・民事判例研究 1 隣地崩壊の危険と土地所有者の予防義務—物権的請求権の効力 昭和7年11月9日大審院第三民事部判決(大審院判例集第11巻第22号2277頁以下) 『法学論叢』第30巻第1号(昭和9年1月1日刊) 125～132頁

・民事判例研究 2 抵当権設定登記と不法原因の為の給付 昭和8年3月29日大審院第四民事部判決(大審院判例集第12巻第6号518頁以下) 『法学論叢』第30巻第1号(昭和9年1月1日刊) 132～138頁

・民事判例研究 3 隠居の意思表示と財産留保 昭和8年5月3日大審院第四民事部判決(大審院判例集第12巻第11号1064頁以下) 『法学論叢』第30巻第1号(昭和9年1月1日刊) 138～142頁(「判例研究文献目録」131)

・民事判例研究 6 法定期間の意義 昭和8年2月24日大審院第二民事部判決(大審院判例集第12巻第1号60頁以下) 『法学論叢』第30巻第2号(昭和9年2月1日刊) 135～140頁

- ・民事判例研究 7 準消費貸借の性質 昭和 8 年 2 月 24 日大審院第二民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 3 号 265 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 2 号（昭和 9 年 2 月 1 日刊）141～145 頁
- ・民事判例研究 10 抵当附債権弁済後の譲渡の承諾と抵当権 昭和 8 年 8 月 18 日大審院第二民事部決定（大審院判例集第 12 卷第 21 号 2105 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 3 号（昭和 9 年 3 月 1 日刊）143～148 頁
- ・民事判例研究 11 登記したる買戻権譲渡の対抗要件 昭和 8 年 9 月 12 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 21 号 2151 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 3 号（昭和 9 年 3 月 1 日刊）149～152 頁
- ・民事判例研究 13 民法第五百四条の適用 昭和 8 年 7 月 5 日大審院第四民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 22 号 2191 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 4 号（昭和 9 年 4 月 1 日刊）129～134 頁
- ・民事判例研究 14 相続財産が法人と為る時期—管理人の選任—訴訟当事者能力
昭和 8 年 7 月 11 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 22 号 2213 頁以下）
『法学論叢』第 30 卷第 4 号（昭和 9 年 4 月 1 日刊）134～140 頁（「判例研究文献目録」176）
- ・民事判例研究 17 保証人の免責（民法第五百四条の適用） 昭和 8 年 9 月 29 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 23 号 2443 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 5 号（昭和 9 年 5 月 1 日刊）130～138 頁
- ・民事判例研究 18 入夫婚姻前の入夫の債務と家督相続 昭和 8 年 10 月 20 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 23 号 2570 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 5 号（昭和 9 年 5 月 1 日刊）138～143 頁（「判例研究文献目録」136）
- ・民事判例研究 23 妻の行為と民法第百十条 昭和 8 年 10 月 25 日大審院第四民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 25 号 2613 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 6 号（昭和 9 年 6 月 1 日刊）157～162 頁
- ・民事判例研究 24 自己の名義を使用せしめたる者の責任 昭和 8 年 7 月 31 日大審院第一民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 23 号 241 頁以下） 『法学論叢』第 30 卷第 6 号（昭和 9 年 6 月 1 日刊）162～168 頁
（7～12 月分）
- ・民事判例研究 29 親族会の（相続人選定）決議無効 決議の解釈—心裡留保、通謀による決議—脱法行為—不当決議の効力に就て 昭和 8 年 11 月 7 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 12 卷第 24 号 2700 頁以下） 『法学論叢』第 31 卷第 1 号（昭和 9 年 7 月 1 日刊）143～153 頁（「判例研究文献目録」109）
- ・民事判例研究 32 不在者の置きたる財産管理人と裁判上の行為 昭和 9 年 4 月 6 日大審院第五民事部判決（大審院判例集第 13 卷第 7 号 511 頁以下） 『法学論叢』第 31 卷第 2 号（昭和 9 年 8 月 1 日刊）123～127 頁
- ・民事判例研究 33 婿養子縁組の解消に因り家を去りたる隠居者の責任—家付きの債務と個人の債務— 昭和 9 年 4 月 20 日大審院第二民事部判決（大審院判例集第 13 卷第 7 号

543 頁以下) 『法学論叢』第 31 卷第 2 号(昭和 9 年 8 月 1 日刊) 128~131 頁(「判例研究文献目録」134)

・民事判例研究 44 賃貸建物の質入 昭和 9 年 6 月 2 日大審院第四民事部判決(大審院判例集第 10 [マ、13] 卷第 12 号 [頁数なし]) 『法学論叢』第 31 卷第 6 号(昭和 9 年 12 月 1 日刊) 140~147 頁

・民事判例研究 45 賃貸借終了後の造作の取外 昭和 9 年 6 月 5 日大審院第二民事部判決(大審院判例集第 13 卷第 12 号 [頁数なし]) 『法学論叢』第 31 卷第 6 号(昭和 9 年 12 月 1 日刊) 147~151 頁

(昭和 10 (1935) 年 1 月 1 日、『民商法雑誌』創刊、第 1 卷第 1 号刊行)

昭和 10 (1935) 年

・民事判例研究 46 法定の推定家督相続人の離籍と家督相続一戸主権確認の訴と相続回復の訴との関係一 昭和 9 年 4 月 24 日大審院第五民事部判決(大審院判例集第 13 卷第 8 号 [頁数なし]) 『法学論叢』第 32 卷第 1 号(昭和 10 年 1 月 1 日刊) 135~139 頁(「判例研究文献目録」24)

・民事判例研究 47 遺言の口授ありと認むべき場合—公正証書に依る遺言の無効と法律行為の転換— 昭和 9 年 7 月 10 日大審院第二民事部判決(大審院判例集第 13 卷第 16 号 [頁数なし]) 『法学論叢』第 32 卷第 1 号(昭和 10 年 1 月 1 日刊) 139~145 頁(「判例研究文献目録」181)

・最新判例批評 取立の目的を以てする債権の譲渡と免除 昭和 9 年 8 月 7 日大審院第五民事部判決(民集第 13 卷第 18 号 1588 頁) 『民商法雑誌』第 1 卷第 3 号(昭和 10 年 3 月 1 日刊) 147~154 頁(平成 22 年 10 月 30 日追加)

・民事判例研究 57 婚姻解消と妻の為したる行為の取消 昭和 9 年 12 月 22 日大審院民事聯合部判決(大審院判例集第 13 卷第 23 号 2242 頁以下) 『法学論叢』第 32 卷第 5 号(昭和 10 年 5 月 1 日刊) 137~142 頁

・最新判例批評 将来の債権の譲渡 昭和 9 年 12 月 28 日大審院第二民事部判決(民集第 13 卷第 23 号 2261 頁) 『民商法雑誌』第 1 卷第 6 号(昭和 10 年 6 月 1 日刊) 169~174 頁(平成 22 年 10 月 30 日追加)

(『法学論叢』第 33 卷より「民事判例研究」は「判例研究〔民事法〕」に変更)

・判例研究〔民事法〕5 合資会社の無限責任社員の相続人の責任 昭和 10 年 3 月 9 日大審院第三民事部判決(大審院判例集第 14 卷第 3 号 291 頁以下) 『法学論叢』第 33 卷第 2 号(昭和 10 年 8 月 1 日刊) 141~146 頁

・判例研究〔民事法〕15 家督相続人指定の届出の遅滞 昭和 10 年 6 月 7 日大審院第二民事部判決(大審院判例集第 14 卷第 12 号 1058 頁以下) 『法学論叢』第 33 卷第 5 号(昭和 10 年 11 月 1 日刊) 141~149 頁(「判例研究文献目録」74)

・最新判例批評 僭称(表見)相続人の登記末梢義務 昭和 10 年 4 月 27 日大審院第三民事部判決(大審院民事判例集第 14 卷第 12 号 [頁数なし。]) 『民商法雑誌』第 2 卷第

6号（昭和10年12月1日刊）109～114頁（「判例研究文献目録」125）（平成22年10月30日追加）

昭和11（1936）年

・判例研究〔民事法〕2 後見人の行為と親族会の決議の取消 昭和10年6月22日大審院第三民事部判決（大審院判例集第14巻第14号1251頁以下） 『法学論叢』第34巻第1号（昭和11年1月1日刊）177～182頁

・判例研究〔民事法〕4 民法第四百七十八条に所謂債権の準占有者 昭和10年8月8日大審院第一民事部判決（大審院判例集第14巻第17号〔頁数なし〕） 『法学論叢』第34巻第2号（昭和11年2月1日刊）144～150頁

・判例研究〔民事法〕2 限定承認と相続人の賃料支払義務 昭和10年12月8日大審院第三民事部判決（民集第14巻第24号所載〔頁数なし〕） 『法学論叢』第35巻第1号（昭和11年7月1日刊）155～162頁（「判例研究文献目録」171）

・最新判例批評 連帯債務者の弁済と代位 昭和11年6月2日大審院第二民事部判決（民集第15巻第13号1074頁） 『民商法雑誌』第4巻第6号（昭和11年12月5日刊）119～124頁

昭和12（1937）年

・判例研究〔民事法〕1 相続開始一年前の贈与と遺留分権利者に対する害意 昭和11年6月17日大審院第四民事部判決（大審院判例集第15巻第15号所載） 『法学論叢』第36巻第1号（昭和12年1月1日刊）166～172頁（「判例研究文献目録」199）

・判例研究〔民事法〕14 相続法に関する注目すべき二つの判決に就て 『法学論叢』第36巻第5号（昭和12年5月1日刊）144～153頁（「判例研究文献目録」79、140）

（冒頭に、「本稿以後に於ては、民事に関する大審院の判決の内、特に注目に値するもので而かも私の日頃の研究と密接な関聯をもつものに限つて、本誌上に於て、その研究を試みることにする。」の記載あり。）

① 隠居者の債務の消滅と新戸主の債務 昭和11年9月25日大審院第五民事部判決（民集第15巻第20号1721頁以下）

② 遺言に依る家督相続人の指定と親族会の選定 昭和11年12月3日大審院第一民事部判決（民集第15巻第24号2159頁〔以下〕）

・判例研究〔民事法〕7 保険金請求権と相続財産 『法学論叢』第37巻第3号（昭和12年9月1日刊）154～166頁

・判例研究〔民事法〕14 養子縁組の予約に就て—養子縁組予約の破棄と損害賠償の請求— 昭和12年5月26日大審院第四民事部判決（民集16巻14号891頁以下） 『法学論叢』第37巻第6号（昭和12年9月1日刊）161～167頁

昭和13（1938）年

・判例研究〔民事法〕1 胎児の代位相続権に就いて 『法学論叢』第38巻第1号（昭和

13年1月1日刊) 193~195頁

・最新判例批評 91 民法第九百八十四条に所謂家に在る直系尊属の範囲 昭和12年8月3日大審院第五民事部判決(民集16巻19号1312頁) 『民商法雑誌』第7巻第3号(昭和13年3月1日刊) 139~146頁(平成22年10月30日追加)

・判例研究〔民事法〕13 民法第一百七十七条に所謂第三者の意義—隠居者の遺産相続人のなしたる不動産持分処分の効力 昭和12年8月28日大審院第四民事部判決(民集第16巻第20号1373頁) 『法学論叢』第38巻第4号(昭和13年4月1日刊) 143~149頁

・最新判例批評 127 妻の財産と夫所有名義の保険契約 昭和12年12月8日大審院第四民事部判決(民集第16巻第23号1764頁) 『民商法雑誌』第7巻第5号(昭和13年5月1日刊) 103~111頁(平成22年10月30日追加)

・最新判例批評 132 土地所有権と侵害予防請求権 昭和13年11月19日大審院第五民事部判決(民集第16巻第24号1881頁) 『民商法雑誌』第7巻第6号(昭和13年6月1日刊) 29~37頁(平成22年10月30日追加)

・判例研究〔民事法〕4 包括遺贈の減殺 昭和13年2月26日大審院第四民事部判決(民集第17巻第3号275頁以下) 『法学論叢』第39巻第2号(昭和13年8月1日刊) 152~161頁

・判例研究〔民事法〕7 民法第八十七条に所謂瑕疵と僭称相続 昭和13年4月12日[大審院]第五民事部判決(大審院判例集第17巻第8号675頁以下) 『法学論叢』第39巻第3号(昭和13年9月1日刊) 138~143頁

・最新判例批評 38 滅失したる旧建物の登記を流用して新建物に付抵当権設定の登記を為したる場合に於ける新建物の競落と所有権の移転 昭和13年2月16日大審院第四民事部判決(民集第17巻第7号613頁) 『民商法雑誌』第8巻第3号(昭和13年9月1日刊) 131~138頁(平成22年10月30日追加)

昭和14(1939)年

・最新判例批評 95 家督相続回復請求権の抛棄 昭和13年7月26日大審院第二民事部判決(民集第17巻第16号1481頁) 『民商法雑誌』第9巻第2号(昭和14年2月1日刊) 299~309頁(平成22年10月30日追加)

・判例研究〔民事法〕14 刑の執行猶予と廃除原因—民法第九七五条第一項第三項に関する四つの問題—(昭和13年12月10日大審院第四民事部判決、民集第17巻第23号2345頁以下) 『法学論叢』第40巻第5号(昭和14年5月1日刊) 160~170頁

・最新判例批評 156 民法施行前の養子と相続 昭和13年12月26日大審院第一民事部判決(民集第17巻第23号2541頁) 『民商法雑誌』第9巻第5号(昭和14年5月10日刊) 251~264頁(平成22年10月30日追加)

昭和15(1940)年

(発表なし? 『法学論叢』第42、43巻、『民商法雑誌』第11、12巻)

(4) 辞典執筆（平成 22 年 10 月 30 日追加）

* 末弘厳太郎（1888～1951）・田中耕太郎（1890～1974）責任編輯『法律学辞典』（全 5 巻、岩波書店、昭和 8 年～12 年刊）

第 1 巻（ア～キ、昭和 8 年 12 月 5 日刊）：「遺骸」（17 頁）、「遺言」（23～28 頁）、「遺留分」（64～66 頁）、「共同遺言」（480 頁）

第 2 巻（コ～シ、昭和 10 年 6 月 30 日刊）：「財産分離」（976～977 頁）

第 3 巻（ス～ノ、昭和 11 年 3 月 15 日刊）：「相続債権者」（1650～1652 頁）、「胎児」（1779 頁）

第 4 巻（ハ～ワ、昭和 11 年 8 月 27 日刊）：「夫婦財産制」（2294～2295 頁）

第 4 巻（総索引、昭和 12 年 3 月 8 日刊）：

4 近藤英吉博士関連著作

- ・「国立国会図書館近代デジタルライブラリー」（「近藤英吉」で検索、7 件検出）
〈<http://www.digital.archives.go.jp/>〉
- ・『京都帝国大学一覧』（各年版。京都帝国大学）

昭和 4（1929）年

- ・「学界風聞記・京都帝大法学部教授の巻」『経済往来』（日本評論社）第 4 巻第 1 号（昭和 4 年新年号）35～43 頁（ただし、近藤博士分はなし。）

昭和 6（1931）年

- ・X・Y・Z「大学人物評論『京都帝大の巻』」『経済往来』第 6 巻第 3 号（昭和 6 年 3 月 1 日刊）197～208 頁（近藤博士分：201～202 頁）

（参考）『経済往来』「人物評論」欄「XYZ」のペンネームは、河合栄治郎、土方成美、本位田祥男三氏（交代執筆）との由。（令和 4 年 6 月 26 日追加）

〈<https://www.sankei.com/smp/premium/news/160430/prm1604300001-s2.html>〉

- ・来間恭「京大展望『転落』への下りか上りか」『大阪毎日新聞』昭和 6 年 5 月 11 日～7 月 28 日（近藤博士に対する下記記載あり。）

神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：

〈<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/SearchServlet>〉

〈http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML_FILE&POS=1〉

「田中〔周友、1900～1996〕君や黒田〔覚、1900～1990〕君と同じように昨年〔昭和 5 年〕帰朝した助教授近藤英吉君も頭のよさにかけては同僚の誰にも劣るものではない。イヤそれどころではなく、同じドイツ民法系の先輩たる末川〔博、1892～1977〕教授よりも、法律解釈のテクニックに関する限りは、近藤君の方が断然上で、東大の我妻〔栄、1897～

1973] 教授をも尻目にかけて、鳩山秀夫博士 [1884~1946] の墨を摩するかも判らない
ぜとまで、ほめ上げる人もある。

[写真 (田中 [周友] 助教授) あり 省略]

現に彼が京大で受持つところの民法第二講座は、論理の明快透徹で、学生の人気を呼んで
いるし、帰朝後つづけざまに発表した「ゲルマン固有の相続法」や「遺留分」などの研究
も、彼の前途における展望を晴れやかに思わせるものではあるが、彼にもまた、少くとも
今のところでは、ソシアルな傾向が微塵もない。彼は例えば物権法を講ずる場合に所有
権の基礎観念について、ちっとも疑問を挟まないようだ。その点では若き近藤君は、末川
教授よりも、我妻教授よりも、中島老 [玉吉、1875~1960] 教授よりもドン・キホーテで
ある!

[写真 (近藤助教授) あり。(省略)]

近藤君はよく酒を飲む。夕方研究室からの帰りらしい彼を、大学近くのおデデン屋に発見
することがよくある。ツンと教授らしく済ましたところは少しもない。徳利を前に大きな
体をゆすぶりながら高談放論する、議論になると無暗に鼻っぴしが強い。果ては「これで
来い」と拳骨と振廻し、学生と組打を初めることなんか珍しくない。

近藤君に限らず、京大法学部の助教授連はよく飲む。一同打ちつれて、時にはお茶屋、
時にはバーで盛大に和衷協同の実を挙げている図は、正に酒戦花やかなりし旧時代の再現
であり、また京大法学部の澁漉たる中興時代来るべしとの予報とも見受けられる。が、そ
のうちでも近藤君は一頭地を抜いた酒徒であり、快男子である。彼をして虎徹の切れ味に
酔い、時勢を知らぬ新撰組の一勇士に終らせたくないといってる者が多い。」

昭和 8 (1933) 年

・『法学論叢』第 29 卷第 4 号 (昭和 8 年 4 月 1 日刊)

「雑報」中「本年度授業担任」(172~173 頁)「民法第三部(債権)近藤助教授」

・昭和 8 (1933) 年 5 月京大事件(瀧川事件)発生(当時の京大事件関係文献調査の必要
あり。)

昭和 13 (1938) 年

・林純平『関西学界展望』(文友堂書店、昭和 13 年 6 月 16 日刊) 74、83~85 頁(この
部分は、「昭和 11 年の春から夏にかけて夕刊大阪新聞に連載したものに補筆した」もの
との由。平成 22 (2010) 年 11 月 8 日松尾尊兌先生の御示教を頂戴したことにより、平成
22 年 11 月 11 日一部修正の上、関係箇所を全文入力した。)

69 頁:「京都帝国大学の巻」、72 頁:「陰の人・宮本法学部長 [英脩、1882~1944]」、
74 頁:「また如何なる心境の変化か、以前には学位などに至つて淡泊であつた [宮本] 氏
が瀧川事件後急に学位をとり、今日では機敏なる事務的才能と政治的手腕を振り、近藤英
吉教授らと共に法学部中心勢力を固めつゝある。」

83 頁:「民事法畑に居並ぶ四教授 民事法講座は現に山田正三 [1882~1949、石田文次
郎 [1892~1979]、近藤英吉、田島順 [1894~1966] の四教授が担当してゐる。中にも

近藤、田島両教授は相共に孜々と勉学に努め、先年斯学の権威末川〔博、1892～1977〕博士を失った後の寂寥さを些か取戻しつつある。」

84～85 頁：「近藤教授は中島玉吉博士の愛弟子で『民法総則』『相続法の研究』其他を続けさまに著してゐる。学問としては既に岡松参太郎〔1871～1921〕、石坂音四郎〔1877～1917〕、鳩山秀夫〔1884～1946〕、中島玉吉〔1875～1960〕の諸博士に依つて大成されてゐる旧民法学の概念法学であるが、しかし「所謂悪法は法の形式を具ふるに過ぎずして法たる効力を有するものではない」24）〔24） 近藤英吉「民法大綱」I 総則 8 頁〕と説き盲目的に法規に服従すべきを排し法の目的・条理に照して判断すべきを主張するところは確かに進歩的な見解である。/（85 頁） それに近藤教授はその昔の京大法学部の伝統を継ぐ者か、斗酒と雖も敢へて辞せずといふ程の豪傑肌であり、人としても年齒に似合はぬ程落着いてゐてよく若手教授・助教授を惹き寄せる。現在でもさういふ傾向が見えるが今後法学部の中心勢力を牛耳る人は恐らくこの辺ではなからうかと想はれる。（改行）田島教授は瀧川事件〔昭和 8 年 5 月発生〕後立命館大学より来つて幸運にも民法物権を担当してゐる〔京大法教授在任：昭和 9 年 3 月 31 日～昭和 18 年 9 月 30 日〕。『担保物権法』『民法一九二条の研究』等を著してゐるが、温厚で近藤教授の陰でその女房役を勤めてゐる。」

昭和 14（1939）年

・『法学論叢』第 40 卷第 4 号（昭和 14 年 4 月 1 日刊）

「雑報」中「本学年度授業担当」（181、182 頁）「民法第一部（総則）近藤教授、民法第四部（親族相続）（親族）近藤教授、（相続）石田教授」

昭和 15（1940）年

・『法学論叢』第 42 卷第 4 号（昭和 15 年 4 月 1 日刊）

「雑報」中「本学年度授業担当」（158、159 頁）「民法第三部（債権）近藤教授、独法第四部（民法）近藤教授」

・『法学論叢』第 43 卷第 4 号（昭和 15 年 10 月 1 日刊）

（表紙：「故京都帝国大学教授法学博士近藤英吉君肖像竝弔辞」、
「雑報 故近藤英吉教授葬儀その他」の記載あり。巻頭：肖像「故 京都帝国大学教授 法学博士 近藤英吉君肖像」あり、弔辞：昭和 15 年 9 月 22 日 京都帝国大学教授法学部長 法学博士 石田文次郎。雑報〈124～131 頁〉：「近藤教授逝去」記事あり。弔辞：友人総代 田島 順、弔辞：門弟一同に代はりて 於保不二雄、噫近藤教授：大隈健一郎。故近藤教授著書論文目録）

昭和 17（1942）年

・原田慶吉（1903～1950）「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大観（法学部・経済学部）』（東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA/HARADA007.pdf>〉

昭和 18 (1943) 年

- ・『京都帝国大学史』（京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊）120、121 頁
〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809>〉

昭和 26 (1951) 年

- ・林良平 (1919～1995) 『物権法』（有斐閣、昭和 51 年 10 月 25 日刊）「はしがき」4 頁（平成 22 年 11 月 28 日追加）

昭和 30 (1955) 年

- ・柚木馨 (1902～1965) 「復刊のはしがき」『現代外国法典叢書 (5)』（神戸大学外国法研究会）独逸民法〔V〕相続法』（近藤英吉、補遺 福地陽子。復刊版、有斐閣、昭和 30 年 7 月 30 日刊）

昭和 33 (1958) 年

- ・伊達秋雄 (1909～1994) 「私の足跡 法窓リレー」『時の法令』第 283 号（旬刊、33.6.23）（昭和 33 年 6 月 13 日刊）42～45 頁（近藤博士の件：43 頁）（平成 27 年 10 月 4 日追加）
- ・伊達秋雄 (1909～1994) 「恩師近藤英吉先生と草鹿浅之介さん」『善人倶楽部』昭和 33 年 9 月 1 日号（『善人倶楽部』については未見、未詳。後、伊達秋雄『法律家の哀歓』（有斐閣、昭和 61 年 11 月 20 日刊）173～176 頁に再録。草鹿浅之介：1900～1993）（平成 27 年 10 月 19 日追加）

昭和 33 (1958) 年～昭和 34 (1959) 年

- ・加藤一郎 (1922～2008)、川島武宜 (1909～1992)、来栖三郎 (1912～1998)、谷口知平 (1906～1989)、柚木馨 (1902～1965) 「民法学の回顧 座談会」(1～6・完)（『有斐閣 法律学全集 月報』掲載。(1)：昭和 33.9 (1958.9)、第 18 回配本；(2)：昭和 33.10 (1958.10)、第 19 回配本、(3)：昭和 33.11 (1958.11)、第 20 回配本 (4)：昭和 33.12 (1958.12)、第 21 回配本、(5)：昭和 34.3 (1959.3)、第 23 回配本、(6・完)：昭和 34.4 (1959.4)、第 24 回配本) ⇒「近藤英吉教授」：(1) 昭和 33. 9 (1958.9)、第 18 回配本：我妻栄 (1897～1973) ・豊島隆 (1907～?) 「鉱業法』月報 9 頁（柚木馨発言）、(6・完)：昭和 34.4 (1959.4)、第 24 回配本木村亀二 (1897～1972) 『刑法総論』月報 4～5 頁（柚木馨発言）等

昭和 38 (1963) 年

- ・「柚木馨先生略歴 主要著作目録」『契約法大系 IV 雇傭・請負・委任』（松坂佐一・西村信雄・舟橋諄一・柚木馨・石本雅男先生還暦記念）（有斐閣、昭和 38 年 3 月 30 日刊）315～320 頁（同書巻末綴込「契約法大系の栞」：高木多喜男 (1930～2019) 「柚木先生の御一面」323～324 頁）（松坂佐一：1898～2000、西村信雄：1900～1989、舟橋諄一：1900～1996、柚木馨：1902～1965、石本雅男：1902～2003）

昭和 42 (1967) 年

- ・末川博 (1892～1977) 「柚木君をいたみしのぶことば」『偲び草 柚木馨先生を憶う』

(柚木馨: 1902～1965、神戸・かおる会、昭和 42 年 5 月刊 (未見)。『末川博随想全集 第 9 卷 思い出の人と私の歩み』(栗田出版会、昭和 47 年 8 月 25 日刊) 283～285 頁に再録、近藤博士関係: 283 頁)

・『京都大学七十年史』(京都大学、昭和 42 年 11 月 3 日刊) 371、372 頁

昭和 41 (1966) 年

・林良平 (1919～1995) 「柚木博士を偲んで」『ジュリスト』第 339 号 (昭和 41 年 2 月 1 日刊) 96～97 頁 (柚木馨: 1902～1965、近藤博士関係: 96、97 頁) (平成 22 年 11 月 17 日追加)

・林良平「柚木馨先生の業績をしのんで」『法律時報』第 38 巻第 4 号 (3 月号、昭和 41 年 3 月 1 日刊) 78～80 頁

・高木多喜男 (1930～2019) 「柚木馨先生の人と学問」、「柚木馨博士略歴 主要著作目録」『神戸法学雑誌』第 16 巻第 1・2 号 (柚木馨博士追悼号、昭和 41 年 9 月 30 日刊) 471～484 頁 (「柚木馨先生の人と学問」: 471～478 頁、柚木馨博士略歴: 479～480 頁、主要著作目録: 481～484 頁) (平成 22 年 11 月 17 日一部修正)

昭和 47 (1972) 年

・於保不二雄 (1908～1996) (ききて: 中川淳 (1927～2017)、椿寿夫 (1928～)、奥田昌道 (1932～)、北川善太郎 (1932～2013)) 「(座談会) 学究の徒として— 一民法学者の軌跡 1 生い立ちから大学を終えるまで」『法学セミナー』昭和 47 年 7 月号 (昭和 47 年 7 月 1 日刊) 64～73 頁 (近藤博士関係: 70、71、73 頁)、「同 2 研究者としての生活を始める」同 8 月号 (同年 8 月 1 日刊) 48～63 頁、「同 3 戦中から戦後にかけて」同 9 月号 (同年 9 月 1 日刊) 104～113 頁 (近藤博士関係: 104～107 頁)、「同 4 於保民法学の方法と課題 (完結)」同 10 月号 (同年 10 月 1 日刊) 56～69 頁 (近藤博士関係: 104～107 頁)

昭和 49 (1974) 年

・伊達秋雄 (1909～1994) 「わが酒の師」『法苑』第 16 号 (昭和 49 年刊) (後、伊達秋雄『法律家の哀歓』〈有斐閣、昭和 61 年 11 月 20 日刊〉205～210 頁に再録。) (平成 27 年 10 月 21 日追加)

昭和 52 (1977) 年

・浦辺衛 (1913～1987) 『ある裁判官の回想記』(日本評論社、昭和 52 年 11 月 20 日刊) 9、11、13、261 頁 (平成 24 年 6 月 6 日追加)

昭和 57 (1982) 年

・林良平 (1919～1995) 「研究生生活をふり返って」『書齋の窓』第 315 号 (昭和 57 年刊) 37 頁以下 (林良平『近代法における物権と債権の交錯』(有信堂高文社、平成元年 3 月 15

日刊) 13～19 頁に再録) (平成 23 年 1 月 9 日追加)

昭和 60 (1985) 年

・林良平 (1919～1995) 「民法学遍歴—物権・債権の交錯とそれをめぐる旅」『法学教室』第 55 号 (有斐閣、昭和 60 年刊) 23 頁以下 (林良平『近代法における物権と債権の交錯』〈有信堂高文社、平成元年 3 月 15 日刊〉1～12 頁に再録) (平成 23 年 1 月 9 日追加)

昭和 61 (1986) 年

・伊達秋雄 (1909～1994) 『法律家の哀歓』 (有斐閣、昭和 61 年 11 月 20 日刊) (「恩師近藤英吉先生と草鹿浅之介さん」173～176 頁 (初出: 『善人倶楽部』昭和 33 年 9 月 1 日号、ただし『善人倶楽部』については未見。草鹿浅之介: 1900～1993)、「わが酒の師」205～210 頁 (初出: 『法苑』第 16 号、昭和 49 年刊)。その他同書 71、135、240 頁に関連記述あり。) (平成 27 年 10 月 19 日追加、同年 10 月 21 日一部補正)

平成元 (1989) 年

・林良平 (1919～1995) 『近代法における物権と債権の交錯』 (有信堂高文社、平成元年 3 月 15 日刊) (1～12 頁「民法学遍歴—物権・債権の交錯とそれをめぐる旅」(初出: 『法学教室』第 55 号 (有斐閣、昭和 60 年刊) 23 頁以下)、13～19 頁「研究生生活をふり返って」(初出: 『書齋の窓』第 315 号 (昭和 57 年刊) 37 頁以下)) (平成 23 年 1 月 9 日追加)
・蝦名賢造 (1918～2009) 『遠藤隆吉伝—巣園の父、その思想と生涯』 (西田書店、平成元年 11 月 30 日刊) 巻末「遠藤家の略系図」(遠藤隆吉: 1874～1946、巣鴨学園創設者、近藤博士夫人は、遠藤隆吉・なつ夫妻二女都氏)

平成 9 (1997) 年

・「佐伯千仞先生に「京大事件」を聞く」『立命館百年史紀要』第 5 号 (平成 9 年 3 月 25 日刊) (佐伯千仞: 1907～2006、平成 6 年 10 月 27 日聞取との由) (平成 22 年 11 月 17 日追加) ⇒「平成 23 (2011) 年」の項参照。

・『京都大学百年史 部局史編 1』 (財京都大学後援会、平成 9 年 9 月 30 日刊) 333～335 頁

〈http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/retrieve/sr_bookview.cgi/BB00000052/Body/4_2_3.html〉

平成 13 (2001) 年

・『京都大学百年史 資料編 3』 (財京都大学教育研究振興財団、平成 13 年 3 月 21 日刊) 「第 4 編 一覧・統計 4 主要人事一覧 (7) 教員

〈http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/retrieve/sr_bookview.cgi/BB00000057/Body/4-04-07-04.html〉

204 頁「こ 近藤英吉 助教授: 1927. 3.31—1934. 3.30 教授: 1934. 3.31—1940. 9.14」、

937 頁: 総索引

平成 16 (2004) 年

・松尾尊兌 (1929~2014) 「滝川事件以後—京都大学法学部再建問題—」『京都大学大学文書館研究紀要』第 2 号 (平成 16 年 2 月 29 日刊) 1~27 頁

〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/68848/1/kua2_1.pdf〉

平成 17 (2005) 年

・松尾尊兌 (1929~2014) 『滝川事件』 (岩波現代文庫, 平成 17 年 1 月 18 日刊) 242、246、247、258、262、298 頁

・小野恵美子「父・岡康哉と京大事件 (シリーズ 立命館を築いた人びと)」『立命館百年史紀要』第 13 号 (平成 17 年 3 月 25 日刊) 169~188 頁 (岡康哉: やすや、? ~1934、小野恵美子氏は岡氏御息女、近藤博士関係: 177、184、185、187 頁) (平成 22 年 11 月 17 日追加)

・金山直樹 (1954~) 「解題 於保不二雄 (1908~1996) 『民法著作集Ⅱ 家族法』 (新青出版、平成 17 年 10 月 20 日刊)」395~399 頁 (『民法著作集Ⅱ 家族法』には、「書評 近藤英吉 相続回復請求権と表見相続人の地位」『法律時報』第 6 巻第 4 号 (昭和 9 年 4 月 1 日刊) 50~51 頁を再録。)

平成 20 (2008) 年

・西山伸 (1963~) 「〈資料紹介〉滝川事件について: 宮本英雄氏聞き取り」『京都大学大学文書館紀要』第 6 号 (平成 20 年 1 月 31 日刊) 65~98 頁 (宮本英雄: 1888~1973) (平成 22 年 10 月 30 日追加)

〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/68876/1/kua6_65.pdf〉

平成 21 (2009) 年

・西山伸 (1963~) 「〈資料紹介〉滝川事件について: 牧健二氏・大隅健一郎氏聞き取り」『京都大学大学文書館紀要』第 7 号 (平成 21 年 2 月 27 日刊) 55~84 頁 (近藤博士関係: 73 頁。牧健二: 1892~1989、大隅健一郎: 1904~1998) (平成 22 年 10 月 23 日追加)

〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/70922/1/kua7_55.pdf〉

平成 22 (2010) 年

・(参考)「奥田昌道先生に聞く 1—恩師、民法学、スポーツ」(聞き手: 金山直樹 (1954~)、松岡久和 (1956~)、佐々木典子)『法律時報』第 82 巻第 10 号 (奥田昌道 (1932~)、全 4 回連載、通巻 1026 号、平成 22 年 9 月号、平成 22 年 9 月 1 日刊) 56~67 頁

〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/40017249260>〉

・(参考)「奥田昌道先生に聞く 2—恩師、民法学、スポーツ」(聞き手: 金山直樹、松岡久和、佐々木典子)『法律時報』第 82 巻第 11 号 (全 4 回連載、通巻 1027 号、平成 22 年 10

月号、平成 22 年 10 月 1 日刊) 68～79 頁

・(参考)「奥田昌道先生に聞く 3—恩師、民法学、スポーツ」(聞き手: 金山直樹、松岡久和、佐々木典子)『法律時報』第 82 卷第 12 号(全 4 回連載、通巻 1028 号、平成 22 年 11 月号、平成 22 年 11 月 1 日刊) 88～99 頁

〈<http://opac.ndl.go.jp/articleid/10854412/jpn>〉(平成 22 年 10 月 30 日追加)

・(参考)「奥田昌道先生に聞く 4 完—恩師、民法学、スポーツ」(聞き手: 金山直樹、松岡久和、佐々木典子)『法律時報』第 82 卷第 13 号(全 4 回連載、通巻 1029 号、平成 22 年 12 月号、平成 22 年 12 月 1 日刊) 340～351 頁(平成 23 年 1 月 1 日追加)

平成 23 (2011) 年

・『疾風怒濤 一法律家の生涯—佐伯千仞先生に聞く—』(語り手: 佐伯千仞先生、聞き手: 井戸田侃、浅田和茂)(成文堂、平成 23 年 11 月 10 日刊) 48、59、77、93、132～134 頁(佐伯千仞: 1907～2006、聞き手: 井戸田侃 1928～2017、浅田和茂: 1946～) ⇒「平成 9 (1997) 年」の項参照。(平成 26 年 5 月 29 日追加)

令和 4 (2022) 年

・佐藤団「西本穎と黎明期の西洋法制史学」(一)、(二)・完『法学論叢』第 190 卷第 4、5 号(令和 4 (2022) 年 1、2 月刊)(一) 5 頁註 7(令和 4 (2022) 年 6 月 26 日追加)
・『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)—』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊)に「近藤英吉博士略年譜・著作目録(18 訂稿)」収録した。(令和 4 (2022) 年 6 月 26 日追加)

5 近藤英吉博士関連新聞記事

(1) 朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」関連記事(朝日新聞縮刷版、5 件)

① 昭和 8 (1933) 年 7 月 28 日(金) 東京 朝刊 3 頁 5 段 記事

「助教授足並み乱れ 講師等強行 京大問題の波瀾続く」

② 昭和 8 (1933) 年 7 月 31 日(月) 東京 朝刊 7 頁 6 段 記事

「残留助教授僅か 2 名 京大事件」

③ 昭和 11 (1936) 年 5 月 31 日(日) 東京 夕刊 1 頁 8 段 記事

「(昭和 14 年度?? 決定) 高等試験臨時委員決定」

④ 昭和 14 (1939) 年 5 月 21 日(日) 東京 朝刊 2 頁 14 段 記事

「高等試験委員(行政科)」

⑤ 昭和 15 (1940) 年 9 月 16 日(月) 東京 朝刊 3 頁 17 段 記事

「近藤京大教授の死去 (5 月 30 日文官試験臨時委員被仰付司法制度調査委員、9 月 14 日付法学博士号授与)」

(2) 「ヨミダス歴史館」 (明治・大正・昭和の読売新聞記事紙面、2件)

- ① 読売新聞昭和 11 (1936) 年 5 月 31 日 (日) 夕刊 2/8 頁 高等試験臨時委員
昭和 11 年度高等試験臨時委員
- ② 読売新聞昭和 15 (1940) 年 9 月 16 日 (月) 朝刊 3/4 頁 近藤京大教授死去
豊島区西巢鴨 2 の 2639 巢鴨学園長遠藤隆吉 (岳父) 宅で急逝

6 国立公文書館資料 (平成 22 年 10 月 23 日追加)

平成 22 年 10 月 21 日現在国立公文書館デジタルアーカイブ資料

〈<http://www.digital.archives.go.jp/>〉

- ① 昭和 15 (1940) 年 09 月 14 日 京都帝国大学教授近藤英吉賞与ノ件
- ② 昭和 15 年 09 月 14 日 高等試験臨時委員近藤英吉手当支給ノ件
- ③ 昭和 15 年 09 月 13 日 故検事杉山清一外一名位階追陞ノ件 ○故京都帝国大学教授近藤英吉
- ④ 昭和 09 (1934) 年 03 月 31 日 昭和 09 年 03 月 31 日 京都帝国大学助教授近藤英吉外二十七名任免並更任ノ件
- ⑤ 昭和 09 年 04 月 02 日小野正敏任命ノ件・三月三十一日付京都帝国大学助教授近藤英吉外二十七名任免並更任ノ
- ⑥ 独逸民法 (5) [請求番号] ヨ 320-0038 [冊次] 6 [人名] 著者:近藤英吉 [書誌事項] 活版、昭和 13 年 ~ 活版、昭和 17 年
- ⑦ 親族法講義要綱[請求番号] ヨ 324-0068 [人名] 著者:近藤英吉 [数量] 1 冊 [書誌事項] 活版、昭和 13 年、東京弘文堂

7 京都大学大学文書館 HP 〈<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>〉 (平成 29 年 10 月 29 日追加)

「教員履歴データベース (京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システムー対象: 1949 年以前の在職者 [旧制] ー)」で検索

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000400>〉

8 林良平教授 (1919~1995) 関係資料 (平成 23 年 1 月 9 日追加)

・林良平 (1919~1995) 『物権法』 (有斐閣、昭和 51 年 10 月 25 日刊) 「はしがき」 4 頁 (平成 22 年 11 月 28 日追加)

・林良平「柚木博士を偲んで」 『ジュリスト』 第 339 号 (昭和 41 年 2 月 1 日刊) 96~97

頁（柚木馨：1902～1965、近藤博士関係：96、97頁）（平成22年11月17日追加）

・林良平「柚木馨先生の業績をしのんで」『法律時報』第38巻第4号（3月号、昭和41年3月1日刊）78～80頁

・林良平「研究生生活をふり返って」『書齋の窓』第315号（昭和57年刊）37頁以下（林良平『近代法における物権と債権の交錯』（有信堂高文社、平成元年3月15日刊）13～19頁に再録）

・林良平「民法学遍歴—物権・債権の交錯とそれをめぐる旅」『法学教室』第55号（有斐閣、昭和60年刊）23頁以下（林良平『近代法における物権と債権の交錯』（有信堂高文社、平成元年3月15日刊）1～12頁に再録）

・林良平『近代法における物権と債権の交錯』（有信堂高文社、平成元年3月15日刊）（1～12頁「民法学遍歴—物権・債権の交錯とそれをめぐる旅」（初出：『法学教室』第55号（有斐閣、昭和60年刊）23頁以下）、13～19頁「研究生生活をふり返って」（初出：『書齋の窓』第315号（昭和57年刊）37頁以下））（平成23年1月9日追加）

（参考）

国立国会図書館サーチ <<http://iss.ndl.go.jp/>>

CiNii <<https://ci.nii.ac.jp/books/>>

（了）